

病児保育、いよいよスタート！！

3月議会で
質問！

■病児保育、H27年度からスタート決定！

まず病児保育とは何か？病気の子どもを預かる取り組みです。伊丹では未実施でしたが、共働き世帯が急増する中、保護者を中心に実施を求める切実な声が多く上がっていました。そしてこのたび、**H27年度の早い時期から、市立伊丹病院で実施**していただける運びとなりました。

■相崎も8年前からずっと要望！

実は私も、議員になる前に**病児保育がないことで大変困った経験**があります。当時1歳だった長女が水ぼうそうに罹り、約10日間も保育所が出席停止に。看病したいものの10日も連続して仕事は休めず、困り果てて当時あった病後児保育（病気の回復期にある子どもをあずかる取り組み）に問い合わせました。ワラをもうがる思いで。しかし「定員（2名）が埋まっている。そもそも回復期ではないですよ」と断られました。状況的に、そして何より精神的に追いつめられ、いろいろな想いが交錯して、大人なのに泣いてしまいました。「議員になって世の中を変えたい！」と強く思った最大の出来事でした。

その後、議員に。初めての本会議でぶつけたテーマが「病児・病後児保育の拡充」でした。経験談も踏まえて当事者が子育て施策を訴えた議員発言は当時珍しかったらしく、インパクトがあったそうです。

その後、機会あるごとに本会議や委員会で訴えつづけ、H23年1月には「ポピンズナーサリースクール伊丹」という保育園で病後児保育（定員2名）が拡充されました。

ただ、病後児保育は使い勝手に限界があることなどから、ニーズはあれど利用人数は多くないという課題があり、やはり病児保育の実施を望む声はずっと存在しており、私も声を上げ続けていました。

市役所側もニーズは十分に把握しており、実施形態を模索している状況が続いていました。そしてこのたび、様々な状況が整り、**市立伊丹病院において病児保育をスタート**できることになったのです。私も本当に嬉しかったし、何より**保護者の皆さんにとっても喜んでいただけたこと**に感動しました。



■気になる点はなんだ？

スタートは嬉しい限りですが、以下の点は気になるどころです。

●定員2名で大丈夫？

医師負担などを考慮すると「まずは2名から」には一定納得も、風邪やインフルエンザが流行る冬は特に定員オーバーが容易に想定されます。近隣実施市と比較しても少ないところ（e.g. 宝塚市9名・西宮市4名、三田市4名・芦屋市4名）。H27年度スタートの「伊丹市子ども・子育て支援計画」では、H29年度には4名にとの計画値が提示されていますが、個人的にはそれでも少ないと捉えています。→市いわく「実際の状況などを考慮しながら、必要に応じて拡充も検討する」

●開始時間は早めに！

子どもを預けた後、ほとんどの保護者は出勤することから（出勤しなくて良いならそもそも預けない）、出来るだけ早い時間から開始してほしいとの声多し。近隣実施市は概ね7:30か8:00から。→市いわく「現在調整中だが、2日目以降は8:00くらいから預かれるだろう」

●受け入れ保育園「みどり保育園」は受け入れ万全？

病児保育の受け入れは、これまで認可外で院内保育などを実施していた「みどり保育園」（伊丹病院の東側）。このたび運営が、（社）伊丹市シルバー人材センターから市立伊丹病院に移行すること。大丈夫と思っはいますが、保育の質は継続されるのか、病児保育の実施体制は万全かは確認したいところ。→市いわく「保育士・栄養士ともに全員継続して勤務して下さいます。病児保育の実施体制もOKです」



市立伊丹病院
（伊丹市HPより）



みどり保育園

病児保育のスタートは、議員になった8年前から取り組んできた私としても嬉しい限り！尽力くださった市役所の方々、OKしてくださった市立伊丹病院の方々には心から感謝しています。今後、状況を鑑み改善を重ねていかなければなりません。これからも随時注視し、真に子どものためになる取り組みにすべく声を上げていきます。そして、病児保育は、困っている保護者が多くいる現状、実施が喫緊の課題と捉えて声を上げてきましたが、本来は「子どもが病気の際には、保護者が仕事を休むなりして看病できる社会の仕組みと風土が構築されるべき」と考えています。そのような社会を私は作りたい。先頭に立って引き続きそしてよりいっそう取り組んでまいります！

ブログ毎日更新中！ フェイスブックもやっています！
<http://yaplog.jp/sawako-aizaki/>

「住みたい街伊丹」、どうPRする?!

3月議会で
質問!

■ネットやリーフレットで伊丹をPR、決定!

このたび、伊丹の良さをPRするwebコンテンツやリーフレットを作成することになりました!
※H26年年度2月補正予算・国の交付金(地域住民生活等緊急支援交付金)・約324万円。
子育て世代をターゲットに、伊丹の良さを知ってもらい転入・定住していただくという取り組みです。

■なぜPRが必要か?

伊丹の一番の魅力は“住みやすさ”だと私は思っています。実際に市民意識調査(H26年8月実施)では、市民の8割が“住みやすい”、9割が“住み続けたい”とお答えくださいました。“住みやすい街”なのはデータでも実証されているわけです。

ただ、この都市間競争の時代、伊丹は果たしてその魅力を十分に発揮できているのでしょうか? 本当はとも住みやすく市民の多くが満足しているのに、市外には魅力が今一つ伝わっていないのではないかと私はそんな気がしており、これが大変に悔しいところです。

財政的観点からみても、市税アップに繋がり市民サービスの向上に発展することから、人口増加は積極的に取り組みたいところ。

もちろん中身を充実させ続けることが根本ですが、同時にPRを強化すべきであり、よって今回の事業には大いに期待をしているところです。

■何をどうPRするのか?

●PR内容 (何をPRするのか? ターゲットである子育て世代に対する伊丹の“売り”は何か?)

→市いわく、子育て世代に対する伊丹の魅力は以下と捉えているとのこと。

- ①医療(こども急病センターが存在・伊丹病院で出産可能)、②教育(学力向上中・全小中学校のトイレ改修・中学校給食開始・全小中学校で補充学習実施)
- ③子育て(病児保育スタート・児童発達支援センター開設予定・児童くらぶ充実)
- ④安全安心(見守りカメラ1000台設置予定・学校耐震化率100%)



●PRツール (いかなるツールでPRするのか? いかなる手段で拡散するのか?)

①webコンテンツ

→市いわく、ターゲット層に伊丹の魅力をアピールするwebコンテンツ(インターネットで発信できる様々な方法の総称。例えばホームページ)を作成すること。市民の実際の声を紹介するなど、伊丹での生活が具体的にイメージできるものにするそうです。SNS(フェイスブック等)も駆使し、多くの方の目に留まる工夫をします。

②リーフレット

→市いわく、不動産屋から、伊丹へ転入を検討している方々にお配りいただくリーフレットを作成すること。「(仮称)住んでみたいまち、伊丹は魅力がいっぱい!」とのタイトルで、ターゲット層に伊丹の魅力が伝わるものにするそう。さらに、以前からあった伊丹の紹介パンフレット「伊丹時間紀行」をリニューアルし、こちらもさらに活用します。

“住みやすい”という伊丹の魅力を、市外の子育て世代などにPRするこの取り組み。伊丹の良さが今一つ市外に伝わっていないことに忸怩たる想いを抱いていた私としては、力を入れて進めたいと張り切っています。皆様も知恵やアイデアをお願いします!

実
現

実現! ピンク婚姻届!

婚姻届。実は様式は定型ですが、印字の色は特に規定がありません。そこで最近、婚姻届をピンク色で印刷する自治体が出現し、これがカッパルに大人気なのだそう。そこでH26年9月議会で、「伊丹市でもピンク婚姻届を!」と提案しました。この活動ニュースにも「市は検討すること。果たして実現するのか? こうご期待!」と記載したものです。

そして今回、限定3000枚でピンク婚姻届(伊丹市マスコットキャラクター“たみまる”つき)の発行が決定しました!

婚姻届を出されるお二人への伊丹市からのささやかなお祝いの気持ちが伝われば幸いです。



「相崎ビジョン2015」 配布中!

相崎佐和子の活動報告ニュース「I TAMI大好き!」。前号の54号は“特別号”でした。相崎のこれまで(実現したこと)、これから(相崎ビジョン2015)を8ページにわたってビッシリ綴っています。

駅やポスティングで配布中。ご希望の方には郵送いたしますので、裏面連絡先までお知らせください。ぜひお目通しくださいませ!

